

健康教育部分科会報告

健康教育に関するデータの効果的な活用方法 ～ライフスタイル自己点検～

養護教諭 山田由美子

1 健康教育部の取り組みの概要

全生徒を対象としたアンケート調査、ライフスタイル自己点検では、生活習慣、メディア接触、学校・家庭の状況、イライラ・自尊感情についての13項目で記名による質問紙式を使用している。しかし、結果を十分にいかしていないといった課題がある。そこで、ライフスタイル自己点検の効果的な活用方法をテーマに、他校との情報交換をふまえた研究協議会を実施したので報告する。

2 研究協議会（発表・研究協議会 11:10～12:00）

参加者は、中学校保健体育教師3名、養護教諭4名の計7名である。

平成27年度のライフスタイル自己点検結果を報告するとともに、意見交換を行った。以下は、協議内容の一部である。

「質問」として、「小規模校の場合のデータの取り扱いについて、データの統計は出すけれど、それで何が言えるのかが悩みである」が、あがった。

対して、谷中先生は、「知りたいものは何なのか、が大切である。人数が少ないと一人の影響が大きい。データ数を明確にし、そういうものとしてみる。または、外れの値を除いて考えてみる。個別を取り出してみるのも良い」との回答である。

3 ミニ講演（12:00～12:40）

共同研究者である鳥取大学地域学部 谷中久和先生によるミニ講演を実施した。演題は「イチから学ぶデータ分析」である。内容は、さまざまな調査・研究の手法、質的研究と量的研究、横断研究と縦断研究、分析と統計の基本等についてである。

4 参会者の感想

縦断的なグラフを作り比較してみると、また新しい発見があり、やってみたいと思った、データ解析について考える機会となった、等である。

5 今後の展望と課題

ライフスタイル自己点検は、身体的・社会的・心理的な側面に加え、生活習慣などの情報を収集し、生徒の心身の健康や発達状態を簡易に査定することが可能である。今後も、効果的な活用方法を研究し、生徒が健康的な学校生活を送れるよう支援していきたいと考える。なお、詳細は学会にて報告予定である。